



～～たまの料理～～



横田 憲一



先月の休みの日、久しぶりに料理をしてみました。といっても、夕食に、カレーライスを作っただけですが、これが比較的評判がよかったです。学生時代に自炊生活をしていたころは、カレーは特に重宝しました。一人の下宿に材料を持ち寄って、何人かで、大鍋に一杯作りました。確かカレールーも2、3箱全部使ったように思います。そして驚くことに、4、5人で全部食べ切ってしまうんです(相撲部屋か！笑)。楽しかったですね。さて、ほとぼりが冷めかけたところで、今月もカレーといきましょうか。もちろんカレー以外の料理も多少できるんですよ。味の方は誰も褒めてくれませんが……。



私のつづやき

～～わたしの1ページ～～



田原 智延



私の家は妻と子供が4人と犬が2匹(いずれも雌)の構成になっておりますが、今は子供が出払い2人プラス2匹で生活しております。私以外は女性ということでハーレムかと思われる方もいらっしゃると思います。地位的には最上位であるかのように装っておりますが、実は最下位です。毎朝6時に犬の散歩を行い、昼休みに会社にいる時はAI将棋と格闘しております。休みは趣味のアジ釣りやNHK将棋口座(教育テレビ朝10:00～12:00)、母親を連れての道の駅巡りとなっております。いつも暇にしておりますので、魚釣り・将棋対局・ドライブに行ってみたい方は、お気軽にお声かけください(笑)。



7～9月の税務・お知らせ

- ・7月…源泉所得税の特例納付(7/10)
所得税の予定納税額の納付
- ・8月…個人事業税の納付
- ・9月…社会保険を算定基礎に合わせて変更



お休みカレンダー

2018年 7月							2018年 8月							2018年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
29	30	31					26	27	28	29	30	31		23 30	24	25	26	27	28	29

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニューズレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 37
夏号

2018年7月



夏到来!!
飛び込みたくなるような
海ですね♪

南の島??
いえいえ日本海です!!
持石海岸です(^^♪



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>

こんにちは、安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、ありがとうございます。

当ニュースレターは3ヶ月に1回発行される季刊誌ですが、7月からの3ヶ月間は、やがて梅雨が明け、灼熱の夏を経て、秋へ向かっていくという、季節の移り変わりを感ぜられる時期です。その時々を季節を楽しみながら、仕事にも邁進したいものですね。

また、9月には、毎年恒例のビジネスプラン特別講演会がごございます。毎年、楽しみにして下さっている方も多く、弊社としても力を入れているイベントです。今回の講師は、東洋思想家で作家の、境野勝悟(さかいのかつなり)先生。日常生活や仕事において、日本人として大切にしたい心がけを、楽しく、分かりやすくお話し下さる、素晴らしい先生です。ぜひ、ご期待いただければと思います！(詳しくは、同封のチラシをご覧ください)
それでは今月号も、どうぞよろしくお願い致します！



代表取締役
安野 広明

「プレイヤーと指導者とは、まったくの別モノ」



自分がその仕事をできたからといって、部下や他の人にも同じようにさせられるかというと、そう簡単ではありません。

自分がプレイヤーとしてやるのと、他人ができるように教える(育てる)というのは、まったく別モノだからです。

例えば、ミスタージャイアンツこと長嶋茂雄氏は、選手(プレイヤー)としては超一流でしたが、指導者としては、選手時代ほどでは無かった・・・という印象を持たれる方が多いのではないのでしょうか。
とある少年野球教室では、小学生に、「球がこうスツとくるだろ！」「そこをグーっと構えて腰をガツとするんだ！」「あとはバァッといってガーッと打つんだ！」という指導をされていたそうですが・・・さすがにこれでは打てるようになりません(笑)。

この、プレイヤーと指導者との違いをしっかりと理解しなければ、いざ自分が教える立場となり、思ったように相手に動いてもらえない場合に、「この人は何でそんなこともできないんだ・・・」と、ストレスを感じてしまいます。そして、そのストレスが態度や表情に現れるようになると、空気感が社内全体に伝わり、ギスギスした雰囲気になってしまうでしょう。

相手ができないことを、その人のせいにするのは簡単ですが、「どうやったら(相手が)できるようになるのか？」「どういう伝え方をしたらよいのか？」を真剣に考え、導くのが、指導する側の役割です。そのためにも、まずは自分自身が学ばなければなりません。

かくいう私も、経営者として、コミュニケーション、コーチング、心理学系の書籍は、少なく見積もってもここ数年で100冊以上読んでいますが、それでも、なかなか上手く行かないというのが正直なところ(汗)。指導(マネジメント、教育を含む)の世界は、本当に奥深いな～と感じています。
ただ、もしも学びを怠り、自分がプレイヤー(＝サラリーマン)だった時の感覚だけで経営していたとすれば、今頃どうなっていたかを考えると、ゾッとするのもまた事実です。

経営者やリーダーは、自身の経験値を過信することなく、プレイヤーと指導者とはまったくの別モノと捉えた上で、「指導者としてのスキルを1から学ぶ」くらいの覚悟が必要だと思っています。

「人を大切にする経営実践講座全6回」がスタートしました！

「地域に、若者から支持されるような魅力的な会社を増やしたい」という想いで、5月より、「人を大切にする経営実践講座」を開催しています。
月1回、半年間に渡るカリキュラムです。志の高い皆さんが集まり、とてもよい雰囲気です！



22名にご参加頂いています



メイン講師の小林先生です



主催者のあいさつ

セミナー紹介

次世代リーダーの会講演会

6月19日(火)に、みやざき中央新聞の「魂の編集長」水谷もりひと先生をお招きして、講演会を開催いたしました。
当日は、約140名の方がご参加下さり、皆様に喜んで頂くことができました！



吉賀町商工会様セミナー

弊社の安野が、6月22日、29日に、それぞれ「未来会計」と「経営計画書」をテーマとして講師をつとめました。
「久々に研修会に参加して、モチベーションが上がりました。」などのご感想を頂いています。



本の紹介



『風林火山』

著者：井上靖

かつての大河ドラマの原作と知り、読んでみた一冊です。
武田家の軍師を務めたとされている「山本勘助」の物語であり、彼が浪人として諸国を巡り、兵法を極めた後、武田家へ仕官するところからの生涯を描いています。

主人公は、正義とは全く逆のブラックな人物であり、任務遂行の為なら二兎を騙すこともいとわず、手段を選ばない人間です。武田家繁栄の為の彼の冷徹非道な行動もこの作品の魅力の一つです。
内容はダイジェスト的に書かれていますので、大変読みやすく、大枠をつかむのに良い本だと思います。



橋本 駿

「プロとしての“屠龍技(とりょうのぎ)”を磨く」



「屠龍技(とりょうのぎ)」という言葉をご存知でしょうか？

実はこの言葉、東京消防庁第6消防方面本部消防救助機動部隊(通称、ハイパーレスキュー)の本部の壁に、「部隊心得」として飾ってあるそうです。そこには、以下の説明書きも添えられています。

『昔、中国の山奥に悪龍が住みつき、時折現れては村人に害を為した。

一人の青年が、「誰かがこの龍を退治しなければならない」と考え、その龍を屠(ほふ)る技を身につけるべく一生かけて「屠龍の技」を磨いた。

龍は二度とその村に姿を現さないまま青年は一生を全うした。

村人の中には無駄なことをしたと笑う者もいた。非(あら)ず、悪龍は屠龍の技を磨いていた者が住む村を恐れて避けていたのである。

龍の出現の有無にこだわらず、屠龍の技を磨く。ただし現れたら一撃のもとにこれを屠る。我々の目指すところである。

災害に備えて常に訓練を重ねる。「何もないこと」と、「何もないようにしたこと」とは天と地ほどの差がある。これが、私たち消防及び6本部機動部隊の心得である。』(インターネットより抜粋)

「屠龍技」という言葉の由来は、中国古典の「莊子」に出てくる故事。広辞苑で引くと、「身につけても実際の役に立たない技術」と出てきます。

ハイパーレスキューでは、これをポジティブな意味に捉え、自らを戒める心得とされているのですね。

そして、この「屠龍技」の心得は、プロとして仕事をする以上、すべての業種に当てはまると思います。

例えば、お客様に商品・サービスの説明をする際、相手からどんな質問があっても対応できるように、専門性を磨いているかどうか。結果的に、たいした質問も無く、すんなり成約できたとしても、あらゆる質問とそれに対する回答を想定し、しっかり準備した上で臨んだのか、それとも、行き当たりばったりでたまたま成約したのか、両者の差は、その後の成長に大きく影響するはずです。

また、専門性と同様に大切なのが、人間性の側面。常日頃、他人や良書から謙虚に学び、自らの心を磨いているかどうか。また、とっさの接客態度や、お客様・同僚・知人との関係性などといった形で影響してくるでしょう。

ちなみに、弊社で毎朝行っている「3分間スピーチ」や、月1回開催する「社内木鶏会(=『月刊致知』を用いた社内勉強会)」等も、人前で意見を述べる訓練を重ねることで、お客様と円滑かつ良好なコミュニケーションを図れるように備えるという意図がございます。まさに、ビジネスプラン流の「屠龍技」なのです(笑)。

まだまだ未熟な私は、専門性と人間性を磨き続け、備えると同時に、その技を使ってお客様や周りの方々を幸せにできるよう、これからも社員と共に精進して参ります！

「常日頃、どんな言語を回していますか？」



常日頃、脳内でどんな言語を回しているか、とりわけ、自分にとって都合の悪い出来事が起きた時に、どんな言語を回しているのかは、とても重要だと思います。

声には出さずとも、「何で自分ばかり・・・」「めんどくさい」「だるい」「最悪」などといった言語ばかりを脳内で回していれば、それは態度や表情に現われ、自分のみならず、周囲にも悪影響を与えるはずです。結果として、精神衛生上もよろしくないし、状況が悪化することの方が多いい気がします。

したがって、できれば、自分にとって都合の悪いことが起きた場合に脳内で回す言語を、予め準備しておいた方がよいのではないのでしょうか。

この点、私の場合、「この出来事は、自分にとって、どんな意味があるのだろうか？」という言語を回すよう習慣付けています。まあ、ネガティブなことが起こった瞬間は、一時的に感情に囚われるのはやむを得ないにしても、ある程度落ち着いたところで、上記のような言語を脳内で回し、自問自答するのです。そうすることで、どんな出来事でも、いったん受け入れることができる、そんな感覚がございます。

少し話しは変わりますが、ある人が、「人生の成功者」が書いた自叙伝や回想録を読み、その中で、最もよく使われている言葉、最も多く出てくる言葉を調査したそうです。

調査前には、「努力」や「信念」といった言葉が最も使われているであろうと予想しましたが、実際の調査結果は、そうではありませんでした。

「たまたま」「丁度そのとき」「ふとしたことから」といった、「偶然の出来事」によって人生が導かれたことを語る言葉が、最も多く使われていたのです。(『深く考える力』(田坂広志著)を参照)

この結果から、「成功者」と呼ばれる方々が、「偶然」と思える出来事の中にも「意味」を見出していることがよく分かります。

彼ら(彼女ら)には、どんな些細なことにも「意味」を感じ取る資質が備わっているのでしょうね。

まあ、私のような凡人は、「成功者」のようににはなれないにしても、その習慣を真似するだけでも自分にとってプラスになるのではないかと考えています。

常日頃、無意識にどのような言語を回しているかによって、人生の質は大きく変わるはず。

いかなる出来事に対しても、「この出来事は、自分にとって、どんな意味があるのだろうか？」という脳内言語を回してみたいかがでしょうか？

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

📖 ビジネス書「人本経営～きれいごとを徹底すれば会社は伸びる」(小林秀司 著)📖

現在、弊社で主催している「人を大切にする経営実践講座全6講」のメイン講師、小林先生のご著書です。70万部超えのベストセラー『日本でいちばん大切にしたい会社』シリーズで有名な、法政大学大学院の坂本光司教授の一番弟子でもある小林先生が、「幸せ軸」経営の本質とその実践方法を、20社以上の成功事例と共にまとめ上げた経営の指南書です。

📖 ビジネス書「仕事に磨きをかける教科書」(水谷もりひと 著)📖

創刊より60年、購読者10000人以上の週刊「みやざき中央新聞」。その“魂”の編集長が、これまでに取材した3000人以上の著名人、文化人、ビジネスリーダーより学んだ「ホンモノの仕事術」を伝授して下さっています。職種、年齢問わず、すべての働く方に使える仕事術です。ちなみに水谷先生は、6月19日にご来益下さり、弊社が運営している次世代リーダーの会主催の講演会でご講演いただきました。

📖 小説「かもめのジョナサン(完成版)」(リチャード・バック 著)📖

「飛ぶことの喜び」を追求したために、仲間から追放された一羽のカモメが、やがて...というこの物語は、全世界で4000万部以上、日本でも260万部を超える大ベストセラーとなりました。長い歳月の後、新たな最終章が加えられ、完成版が刊行されています。自由とは？意志とは？を考えさせられる1冊です。

📖 映画「砂の器」(原作 松本清張／脚本 橋本忍・山田洋次)📖

迷宮入りと思われた蒲田操車場殺人事件。捜査を担当する警視庁刑事・今西と西蒲田署刑事・吉村は、「東北弁のカメダ」という言葉を手がかりに東奔西走、犯人に肉薄した。そこで二人が見たものは…。言わずと知れた不朽の名作。島根県も舞台になっています。ピアノ協奏曲「宿命」が流れるラストシーンは、涙なしに見られません！